

「いのち」の教育実践事例

☆高畠町立屋代小学校の実践

直く
正しく
美しく

— 先人の思いを広げ、深める「ひろすけ学習」・「みのり学習」 —

日本のアンデルセンと呼ばれた浜田広介先生の母校として、長年継続してきた読育や地域学習を通して「いのち」の大切さについて考える教育活動が学校行事において展開されている事例です。

○ 広介作品を教材にした道徳の授業

浜田広介先生の中にある道徳的な価値のよさに気づかせ、豊かな情操を育むことをねらいとして、全ての学級で広介作品を教材にした道徳の授業を行っています。作品に深く触れ、友達の考えを聞き、日常生活に結びつけて考えることで、道徳的な実践意欲が育まれました。「困っている友達がいたら声をかけよう。」「こんな言葉は心が温くなるな。」など授業を通して育まれた友達を思いやる心が、たくさんの思いやりのある行動になり、「親切をしてもらったら花のカードに書こう」の取組では、親切の木が思いやりの花で満開になりました。

ぼくのために悪者になってくれたんだね。青おにさん、ごめんね。本当の友情って何だろう。



○ いのちを育む感想画・感想文への取組

全学年が浜田広介先生の作品に親しみ、感想画と感想文に取り組んでいます。「ないた赤おに」や「りゅうの目のなみだ」など主人公の気持ちを考えながら自分の感じたことを素直に表現しています。作品からは、人の気持ちを大切にできる心、友達を認め合える心が培われていることが伝わってきます。感想画は全校生分を掲示し、地域の方にも見られています。友達や家族、地域の方に見守られながら、愛と善意の精神を受け継ぎ、「いのち」の大切さについて考え、表現できる屋代の子もたちです。



登場人物の気持ちが伝わってくるな！

○ 地域の先生に支えられたみのり学習

「大豆を使って豆腐を作ろう。」「全校生のみんなに餅をふるまおう。」など目的を持ち各学年で栽培活動に取り組みました。地域の方に「畑の先生」としてアドバイスをもらいながら、成長の様子を観察したり、草取りなどの世話をしたり、計画的に作物を育てました。さらに収穫の喜びを感じながら、調理や加工、販売、収穫祭の開催などの活動を行うことで、人と人とのつながりや命のつながり、そして命の大切さについて考えることができました。



今まで苦労して育ててきたお米をみんなに食べてもらおう！